



問題山積の二酸化炭素の埋め戻し事業

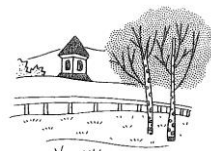
釧路コールマインは、釧路石炭火力発電所から出る排出ガスから、二酸化炭素を取り出し炭坑跡に埋める技術の開発を行っています。

しかし、世界では、1970年代から始められているこの事業に多額の資金が必要とされ計画、開発着手したが稼働に至らないケースが多々起きています。

釧路市は、この二酸化炭素の埋め戻し事業に1,000万円の補助金を支出しています。先行きを見誤った税金の使い方になるのではないのでしょうか。

目前に迫る脱炭素社会に向けて、一刻も早い石炭産業からの脱却し、若者を呼び込める産業を育てることが必要です。

それが釧路地域の発展には欠かせません。



世界基準との違和感だらけの日本の気候対策用語

- ①非化石エネルギー源の中に化石起源が含まれる。
- ②ゼロエミッション火力発電がゼロにならない。
- ③次世代省エネ基準が1999年基準。
- ④電気自動車にハイブリッド車が含まれている。
- ⑤GX(グリーントランスフォーメーション)の原発で脱炭素を目指す。